

南昌だより

2020
No. **40**
2020年4月1日発行



恒和荘本誌P12



敬寿荘本誌P6



こ〜ずカフェ本誌P9



悠和荘本誌P11



こずかたこども園 本誌P6



矢市町地域包括支援センター 本誌P7



敬愛荘 本誌P14



若園荘 本誌P13



志和荘 本誌P10

医療法人社団 帰厚堂

【基本理念】

「愛と誠の精神」

私たちは、
すべての人に感謝の気持ちをもって
奉仕いたします
また、
信頼される医療を提供するために
全ての専門職種による
チーム医療に万全を期します

社会福祉法人 敬愛会

【基本理念】

「地域と共に生き 地域と共に歩む」

私たちは、
すべての人に感謝の気持ちをもって
奉仕いたします
また、
信頼される福祉サービスを提供するために
全ての専門職種による
チームケアに万全を期し
その人らしい生活が育まれるよう
支援します

2020
No. **40**
Contents

- 2P…… 巻頭言
…… スタッフ紹介
- 3P…… 職場紹介
- 4P～5P …… リハビリテーション その10
- 6P～8P …… ケアセンター南昌

- 9P…… こ〜ずカフェ紹介
- 10P…… 志和荘
- 11P…… 悠和荘
- 12P…… 恒和荘
- 13P…… 若園荘
- 14P…… 敬愛荘
- 15P…… 南昌病院
- 16P…… 診療案内



医療法人社団 帰厚堂
<http://www.kikodo.or.jp/>

社会福祉法人 敬愛会
<http://www.shiwasou.jp/>





日本人が長生きするための話

第二循環器内科部長 三浦 秀悦



日本人が長生きするためには、まず日本人がなんで死んでいるかを知らなければなりません。長生きするということはできるだけ死なないということで、日本人がなんで死んでいるかを知り、できるだけそうならないようにすることが長生きするコツなのです。

戦後間もなくは日本人の死亡原因の第一位は結核でした。しかし日本人の栄養状態が良くなったことや治療薬の開発により結核で死亡する人が減少すると、代わって一位になったのが脳卒中でした。死亡をまぬがれても半身麻痺などの重い障害を残し、働き盛りの人でも発症し、突然働けなくなるという社会的な損失の面でも問題になりました。脳卒中を予防するために初めに注目されたのが血液検査等をしなくても血圧計さえあれば測定できる血圧でした。高血圧の人が脳卒中になりやすいことがわかり、塩分を抑えた食事がすすめられ、さまざまな血圧を下げる薬剤が開発され治療に使われました。そのため最近ではほとんどの高血圧症の患者の血圧をコントロールできるようになってきました。高血圧症治療の普及により死亡原因の第一位は悪性腫瘍になりました。しかし脳血管疾患で亡くなる方は依然二位か三位で、心疾患で亡くなる方は増え続け死亡原因の第二位になりました。そして第二位の心臓病と第三位の脳血管疾患をたすと第一位の悪性腫瘍に迫るほどの数字になります。

脳血管疾患や心疾患の多くを占める心筋梗塞や狭心症は動脈硬化によって起きており増加傾向にあるので高血圧症の治療だけでは不十分だということがわかっています。日本人が長生きするコツはおおざっぱにいうと『悪性腫瘍の予防と早期発見、早期治療。動脈硬化予防と脳卒中

と心臓発作の迅速な治療』ということになります。この中で悪性腫瘍については臓器ごとに異なる部分もあり私の専門外でもありますので『禁煙してがん検診を受けましょう』とだけ話しておきます。脳卒中、心臓発作については多くは大病院の救急治療を受けることになりますが、救急治療の現場は多くの救急患者が押し寄せて疲弊しているとの報道もあります。

そこで私は動脈硬化の予防についてお話ししたいと思います。高血圧治療だけでは不十分とわかり、他の原因を調べると、家族歴、肥満、喫煙、高血圧症、糖尿病、コレステロールに代表される脂質異常症などが危険因子だとわかりました。家族歴については変えようがありませんので、脳卒中や心臓病の家族を持つ方はなおいっそうご注意くださいということになります。その他のものについては自身の努力や生活習慣の改善、あるいはそれぞれの治療によって改善させることができます。これらのほとんどが進行するまでは多くが無症状です。また、いまだに高血圧などを放置して脳卒中や心臓病を発症する方も少なくありません。メタボ検診(特定健診)などを受けて早めに改善させておきましょう。

今年は新型コロナウイルス感染症の出現により死亡原因として肺炎が増加すると思われます。新型なのでまだ詳しいことはわからない中で日本では感染すると20%が重症化し、2%が死亡すると言われていています。高齢者や持病を持っている方の死亡率が特に高いと言われていています。不要不急の外出は避け、手洗い、うがい、体温測定、手に入ればマスク、消毒を心がけてください。

スタッフ紹介

チームの一員として皆様の元気をサポートしています!

こんにちは。敬愛荘栄養管理科、管理栄養士の山口寿恵と申します。入社して9年目になります。南昌病院に入職し、その後、介護老人保健施設博愛荘を経て、平成30年11月より敬愛荘で勤務をしております。敬愛荘での勤務はまだ1年半ですが、徐々に慣れてきたところでもあります。管理栄養士の主な仕事は、利用者の方々が健康で過ごすための栄養管理と安全でおいしい食事を提供することです。

当施設では、個別ケアに力を入れており、利用者一人一人の問題点を各職種で共有し、個々の課題に合わせたケアを行い、状態の改善を図っています。そのため、スタッフ間の情報共有を大切にしており、管理栄養士も定期的にショートカンファレンスに参加し、チームの一員として、利用者皆さんのサポートをしています。管理栄養士は当施設に1人しかおらず、不安を感じることも多くありますが、各担当職員に相談ができ、一人で悩まずに問題の解決ができる環境で働けることは、大変心強く思っています。

私は、管理栄養士として、多職種協働のチームの一員とし

て、また、生活に欠かせない「食」の専門職として、いつも必要とされる存在でありたいと考えています。食欲が低下した利用者には、少しでも口から食べることができるよう、利用者本人や家族に話を聞くことを大切にしています。何気ない会話の中には、その人らしいケアをするために必要なヒントが詰まっているので、そこで得た情報をもとに、食事の内容を工夫します。その工夫により、食べることができるようになった時は、やりがいを感じる瞬間でもあります。

食は健康の維持・増進だけでなく、心の栄養にもなります。利用者がいつまでも「楽しく食べる」ことができるよう取り組みを続けていき、利用者にも職員にも「栄養士がいてよかった。」と思っていただけるような管理栄養士を目指し、利用者に寄り添った栄養管理ができるように心がけていきます。



敬愛荘 栄養管理科
管理栄養士
山口 寿恵

職場紹介

ご家族と地域の繋がりを大切に

やさしさと思いやりの心で、あなたらしい生活が送れるよう支援します。

～ 認知症対応型共同生活介護 グループホーム 若園荘 ～

若園荘は、文教施設が集まる市街地、盛岡市若園町盛岡市内循環バスでんでんむし若園町停留所正面に位置しています。

2つの幼稚園、城南小学校、盛岡第二高等学校、武道館が500メートル範囲内にある社会資源にめぐまれ、開設から8年目を迎える3階建・2ユニット定員18名のグループホームです。

利用者18名の平均年齢 89.35歳 平均介護度 2.9

職員は介護福祉士12名を含む介護職員17名・看護師1名・歯科衛生士1名から成っています。

当事業所は、認知症の高齢者の方が家庭的な環境と地域交流のもと、少人数で共同生活を送りながら、その方の能力に応じ、自立した生活が送れるようにサービスを提供しております。

「地域と共に」をモットーに昨年は、子供会の万灯祭りの参加協力、民生委員さん主催のカレーを食べる会の場所提供と参加、また、城南地区文化祭へ利用者様の折り紙や貼り絵等多数出展し、好評価でした。町内清掃、沿道の花の水遣りや、下校する小学生への声掛けなどを利用者様と一緒に行いました。城南地区新年会、若園町町内交流会・学校行事への参加、城南地区の安全・安心に向けた懇談会への参加、防災訓練、そばっち体験などなどでした。

12月には若園荘で認知症カフェを開催して頂きました。認知症のご家族やボランティアの方々、町内会長様ご近所の方もお集まり頂き、利用者様との会話や歌、ご家族のご苦労話などをお聞きし楽しい会でした。

認知症カフェは初めての試みでしたが主催者の方とも相談して今後も再開したいと考えています。また一階を開放して、若園荘利用者様や近隣の認知症の方とその家族様とも情報交換を行いたいと考えています。

その方の個性を大事にしたいという思いから、これまで誕生会といえばケーキでお祝いが恒例となっていました。単調な誕生会ではなく、その方の笑顔が一番、ホットな誕生会を実施したのでその紹介をします。

お酒好きの87歳の利用者様に、ノンアルコールビールで乾杯を、つまみは枝豆で居酒屋気分を味わって頂きました。また、お寿司好きの利用者様に、職員が付き添い、すし屋にて、ちらしずしでハッピーバースデーなど、グループホームならではのアイデアでお祝いしています。

開設7年目にして、若園荘の職員の認知症に特化した得意なケアの聞き取りを実施した結果を御紹介します。トップは優しさ・笑顔が31%、傾聴25%、レク・外出13%、コミュニケーション6%などでした。

認知症ケアの第一条件は、認知症の方の言動・行動

の否定はせず、まずは優しく傾聴姿勢で対応するケアを得意としているスタッフが多いことが解りました。次に職員が考える施設の強みは何かに対し、地域に開かれた施設31%、安心して最後まで暮らせる19%、介護は利用者と一緒に楽しんで行う12%、個性を大事にしている12%、排便・座薬の使用なし12%でした。

排便をしない排便ケアは、食物繊維の継続摂取と水分量調整で、はと麦・もち麦を米飯に混ぜる、きな粉をヨーグルトに混ぜるなど実施した結果、4名全員の排便がなくなり、更に18名全員が座薬を使用しないで自然排便が可能となっている事です。排泄は尊厳を守る大事なケアとして職員一丸となって頑張っています。

また、看護師が常勤しており、利用者の健康・生活環境の管理、通院の付き添い等を行っています。

今後の課題です。

現在入居されている利用者様の笑顔を大事に、平均年齢95歳を目指し、歳を重ねても、泣き笑いがあり、安心して最後まで暮らせる居場所作りをしなければなりません。

まだ、看取り経験がない事もあり、今後、法人の協力を得ながら、看取りを実施していくことが求められていると感じています。

看取り実施には、職員の自己研鑽は基より、研修を重ね、アドバンスケアプランニングをご家族様・利用者様の意向を考慮して信頼関係を築くことが課題であると思っています。

認知症高齢者が増えつづける現在、立地条件を活かし、利用者様・ご家族様に選ばれるグループホームを職員一同目指しています。

その為には、地域とともに、子供会行事・小学校行事・文化祭などの行事に積極的に参加して、今後もわが町散歩を大に行います。

そして、職員の得意ケアを増やし、個別ケアの充実を目標として、他職種と共にあなたらしい生活支援をしていきます。





重度障害者用意思伝達装置について

神経難病等によって、体が動かないばかりか、声すら出せなくなるなどの重度の障害をお持ちの方にとっては、介助者によるあらゆる場面での、直接的できめ細やかな支援が必要で、それが、その方の生活の質を支えることとなります。そして、直接的できめ細やかに行き届いた支援の為には、意思を伝え合うコミュニケーションが必要となります。

しかし、言葉やジェスチャーで人を呼ぶことも意思を伝える事もできなくなった場合、精神的な不安やストレス、孤独感は言葉では表せないほどのものであると思います。

また、周りにいる人も、相手の意思を理解するのに時間がかかる上に、支援の内容が増加していくと、関わることへの負担感や面倒な気持ち、理解できないことに対しての不安感・罪悪感が増してしまいます。

コミュニケーションが出来ない状況では、お互いの気持ちに葛藤やすれ違いが生じ、それぞれが持つ負担感は増してしまいます。関係性にも悪影響を及ぼしてしまうかもしれません。

意思疎通ができることはお互いの信頼関係を強め、安心して過ごしていくためにとても大切です。それをサポートしていくために開発されたコミュニケーション機器が「重度障害者用意思伝達装置」となります。



1. 重度障害者用意思伝達装置とは

重度の両上下肢及び音声・言語の障害により意思の表出を行うことが出来ない場合に、失われた機能を代替し、意思の表出を可能とするための特定の装置の総称です。

わずかな運動機能（筋活動）のみで、自分以外の誰かに自分の意思を伝えるための福祉機器であり、入力装置（スイッチ）ひとつで文字が入力できるなどの操作が可能です。

2. 対象は以下の通りになります

- ①筋萎縮性側索硬化症（ALS）等の進行性の神経・筋疾患（難病）をはじめ、脳血管障害や脳性麻痺等により両上下肢機能の全廃及び音声・言語機能を喪失した方。
- ②急速な進行により、間もなく①の機能が喪失状態同等になると診断された進行性の神経・筋疾患（難病）の方。

3. 適応となる条件は以下の3つになります

- ①意思伝達装置を用いなければコミュニケーションを図ることができないこと。
- ②機器を使用する意欲と能力を有すること。
- ③機器の使用により心身に与えるストレスが少ないこと。

4. 使用のために必要な能力には以下の3つが挙げられます

- ①機器（主にパソコン）を使用できるだけの認知機能が保たれていること。
- ②視力に大きな問題がなく、機器に示す内容を理解し読み取れること。
- ③ごく微力でも自分の意思でわずかな運動（筋活動）ができること。

5. 機器の種類

意思伝達装置は①文字等走査入力方式と②生体現象方式に大別されます。詳細は以下の通りです。

①文字等走査入力方式（図1）

意思伝達機能を有するソフトウェアが組み込まれた専用機器であり、画面上に表示された文字盤上に、一定時間ごとに移動する選択帯に合わせてスイッチ操作をすることで、任意の文字やメッセージ等を選択していくものです。

- A…意思伝達機能を有するソフトウェアが組み込まれた専用機器（簡易なもの）
- B…Aに通信機能が付加されたもの（電子メール等が伝達できる）
- C…Aに環境制御機能が付加されたもの（テレビ等の電気製品も操作できる）

②生体現象方式（図2）

生体信号の検出装置と解析装置にて構成されるものであり、運動機能（筋活動）によるスイッチ操作が困難となった場合に、相手の問いかけや呼びかけに対して脳波や脳の血流量等の生体現象を利用して「はい・いいえ」を判定するものです。



図1

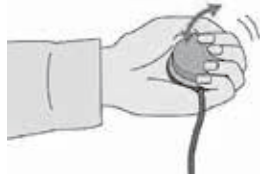


図2

6. 文字等走査入力方式における入力装置（スイッチ）の種類は以下の7種類になります

①接点式スイッチ

押しボタンスイッチのように、接点に触れることで反応するものです。



②帯電式スイッチ

身体の静電気に反応するものです（いわゆるタッチセンサー）。



③筋電式スイッチ

筋肉が収縮するときに発生する筋の電気信号で反応するものです。



④光電式スイッチ

ファイバー光線を遮ることで反応するものです。



⑤呼気式（吸気式）スイッチ

チューブやストローを通して呼気圧（吸気圧）を検知するものです。



⑥圧電素式スイッチ

身体に貼り付ける薄板のたわみで感知するもの（図A）と空気圧の変化で反応するもの（図B）があります。



図A



図B

⑦視線検出式入力装置

視線を認識して入力します。眼球運動のみで入力するものです。



※その他必要なものとして、本人が操作しやすい位置に固定するための道具（入力装置固定具）や、人を呼ぶための呼び鈴、意思伝達装置を操作するスイッチの信号を切替えて呼び鈴の使用もできるようにする分岐装置（呼び鈴分岐装置）、プリンター等があります。

上記で説明した機器を有効に活用していくためには、

本体とスイッチの組み合わせが非常に重要となってきます。どのような目的で使いたいか（本体の機能）、そして体の動く部分で無理なく操作できるスイッチの種類はどれか等を踏まえ、組み合わせをよく吟味して使用することが大切です。

7. コミュニケーション機器の給付制度について

福祉用具は、その機能から「義肢・装具など補装具を中心とした用具」と「日常生活に関する用具」に分類されます。これらは「障害者総合支援法」によってそれぞれ「補装具」「日常生活用具」として規定されています。意思伝達装置は補装具に該当し、要件を満たす場合に申請することで支給されます。

※1 補装具：身体に装着（装用）して用いるもので、使用に当たっては専門的な判断・支援が必要なものの要件は以下の3つになります。

- ①身体の欠損または損なわれた身体機能を補完、代替するもので、障害個別に対応して設計・加工されたもの。
- ②身体に装着（装用）して日常生活または就学・就労に用いるもので、同一製品を継続して使用するもの。
- ③支給に際して専門的な知見（医師の判定書または意見書）を要するもの。

※2 市町村によって支給対象や状況は異なってきますので、詳しくはお住まいの地域の役所、役場の障がい福祉の担当課へお問い合わせください。

8. おわりに

技術の進歩によって、社会の中には身体に重い障害を持ちながらも意思伝達装置を活用することで、日常生活上の最低限のコミュニケーションばかりではなく、在宅勤務を続けて収入を得たり、ネットショッピングやゲームなどを楽しんだり、親しい人とのメールでの交流を継続したり、といった事を実現する方が増えています。

反面、中にはそういった情報を知ることなく最期を迎えてしまう方が多く存在するのも事実です。必要な方が、自分らしく楽しく生きられるための1つの手段として、上手に使い、活かしていただくためにも、ぜひ多くの方に「意思伝達装置」を知って頂きたいと思います。

〈ご相談窓口〉

◎岩手県福祉総合相談センター
（障がい保健福祉部・身体障害者担当）

TEL：019-629-9613

◎一般社団法人岩手県作業療法士会事務局

FAX：019-691-1588

E-mail：iwate-ot@h8.dion.ne.jp

（FAXまたはE-mailのみでの受付となります）

文責 南昌病院 作業療法士 遠藤 のり子

〈参考書籍・資料〉

- 1) 宮永敬市、田中勇次郎 編著：作業療法士が行なうIT活用支援。医歯薬出版株式会社
- 2) 日本リハビリテーション工学協会 編：「重度障害者用意思伝達装置」導入ガイドライン～公正・適切な判定のために～
- 3) (社)日本作業療法士協会 編：障害者IT活用支援ガイドブック
- 4) 厚生労働省 障害者支援機器の活用ガイドブック
(<https://www.mhkw.go.jp/content/12200000/000307902.pdf>)

〈参考ホームページ〉

- 1) 重度障害者用意思伝達装置 - 日本リハビリテーション工学協会 -
<http://www.resja.or.jp/>
- 2) 厚生労働省 意思疎通支援
<https://www.mhlw.go.jp/bunya/shougaioken/sanka/shien.html>

各施設から

ケアセンター南昌での主な取り組み(2021.1月~2月)

【新型コロナウイルス対策について】(博愛荘)

現在、私ども博愛荘では、入館時の体温検査を徹底し、職員の健康管理に努めております。
施設利用者の御家族様に於かれましては、面会制限をさせて頂いております。
高齢者は、重症化しやすい状況があり、外部との接触を極力防ぐ必要があるため、面会制限の解除につきましては、未だ目途が立っておりません。ご理解とご協力のほど、お願い致します。
現状では感染等見られておりませんが、引き続き気を引き締めて対応して参りますので、皆様のご理解とご協力を重ねてお願い申し上げます。

【思いやり頂戴しました】(博愛荘)

2月の誕生会を開催しました。
現在、感染症対策のため、博愛荘は3階・4階を別々の開催しております。
4階の誕生会内容は、みんなで豆まき、職員のカラオケ余興など。豆まきは、強い力で鬼に豆をまき、健康を祈願しました。誕生者も喜んでおられました。
そんな中、急遽利用者様が介護職員佐々木のために、厄払い祈願をして下さいました。
相手の事を思い、お互いに楽しい誕生会ができる事に有難みを感じる日でした。



【節分】(こずかたこども園)

心の鬼をやっつけるため、豆まきをしようと思っていた節分当日。
今年は良い子にしていたはずなのに…
なぜかたくさんの鬼が、こども達を仲間にしようとやってきました。
そんな鬼達めがけて紙玉をぶつけ、心の鬼をやっつけた後、鬼さんと強い誓いをして仲良くなりました。
いい子になるので、来年こそは鬼が来ませんように…



…くる~きつと来る~



【百寿表彰】(敬寿荘)

2月25日(火)、敬寿荘に入居されている100歳の方に、矢巾町からの表彰が行われました。
吉岡センター長、高橋事務長、川戸総看護師長、ご家族、入居者、職員が見守る中、高橋矢巾町長から表彰状と花束をいただきました。

またセンター長からも花束を贈られ、本人だけでなくご家族様も感激しておられました。

全員で記念撮影をしたあと、ご家族と一緒にお祝いのケーキを召し上がりました。

午後からは敬寿荘内でも誕生会を行い、誕生日ケーキをみんなでいただきました。ご本人は食欲旺盛でケーキをペロリと平らげました。元気一杯で、私達も生活のお手伝いをできることを幸せに感じながら日々の業務に当たっております。
100歳のお誕生日おめでとうございます。これからも元気に過ごしましょう。



【みずき団子作り】 (ショートステイやはば)

1月14日、五穀豊穰を祈る小正月の行事「みずき団子」作りを行いました。

利用者の皆さんに、好きな色の粘土を選んで頂き、いざ団Go!

手袋を着用すると、思う様に粘土を丸めることができないものなんですよ。

真剣に作る方や、懐かしむ方、楽しんでいる方々と、小さいものから大きいものまで一生懸命に形を作っていました。

最後は、カラフルな個性あふれるみずき団子ができました。

今年も皆に良い1年でありますように!!



【おわかれ会】 (こずかたこども園)

今までたくさん優しくお世話をしてくれた、憧れのめろん組のお友だちとも3月でお別れです。感謝の気持ちを込めておわかれ会をしました。

小学校に行っても、みんなのことを忘れないでほしいなあと思い、学校で使ってもらえるような手作りプレゼントを渡したり、じゃんけん列車でゲームを楽しみました。給食も縦割り班グループになりバイキングを楽しみました。

在園児のお友達は「めろん組さんをいつまでも忘れないよ」と声をかけていました。



【事例検討会で社会資源を学習】 (矢巾町地域包括支援センター)

2月12日(水)、さわやかハウスにおいて、矢巾町等ケアマネ連絡会「やはマネ会」主催の今年度第2回目の事例検討会が開催されました。

標記連絡会の会員である「えがお指定居宅介護支援事業所」(盛岡市内)が事例を提供し、会員の他に施設ケアマネジャーやサービス事業者、障害福祉の相談員など約40人の方が参加されました。

事例のテーマは「二人でここで暮らしたい」高齢者への支援。事例を深めるとともに地域の社会資源もテーマとなり、高齢者などに生活支援サービスを提供する「おれんじボランティア」や社協の「矢巾町日常生活たすけあい隊」について担当者から説明を受け、参加者から活発に意見が出されました。

また、矢巾町特命課の村松課長から「エンジョイやはばネットワーク事業」のお話をいただきました。

今後ますます包括的な支援を必要とする方が増えていくうえで、様々な資源を知ることが貴重な機会となりました。

前回の検討会では「急性期の退院支援」をテーマにし、病院の相談員さんにも参加していただくなど、事例に合った必要と思われるテーマをその都度設定しています。

居宅ケアマネジャー以外の方の参加も大歓迎です。利用者さんのために、技術と資質向上のために一緒に頑張りましょう!

また、ケアマネ資格のある方で「やはマネ会」に関心のある方は、いつでも入会を受け付けております。詳しくは矢巾町地域包括支援センターまでお問合せください。



【レクリエーション】(デイサービスつむぎ)

今回は午後のレクリエーション《ゲーム活動》について紹介します!!



☆☆☆ ゲームの種類 ☆☆☆

- | | | | |
|-----------|-----------|---------|---------|
| ① 輪投げ | ② スカットボール | ③ 玉入れ | ④ ボーリング |
| ⑤ ベンチサッカー | ⑥ 的当て | ⑦ 風船バレー | ⑧ 魚釣り |
| ⑨ 新聞ゴルフ | ⑩ 物送り | | |



☆☆☆ デイケア人気トップ3 ☆☆☆

- 1位…輪投げ **ダントツ!輪投げ**
目標の的に向かって真剣な眼差しで投げます!
周りの応援も賑やかで終始楽しい時間です
「上手く入らなくて悔し〜」それも輪投げの楽しさです☆
- 2位…スカットボール **「スカット」なのに「モヤット」する!?**
スティックで空いている穴を目がけて、ボールを入れていくゲームです。なんかモヤットする…
笑いが絶えません☆(#^.^#)
- 3位…風船バレー **利用者も職員も本気で試合します!!**
「そっちだよー!!○○さーん!!」と、皆で声をかけあいながら、身体も頭も心も使って必死です(笑)
終了した時の達成感は快感です☆



レクリエーションには様々な考え方がありますが、博愛荘デイケアでのレクリエーションの目的は

- 介護を必要とする人が病気から回復すること
- その人らしい人生を再創造すること
- 楽しく充実した豊かな人生を歩む為の生きがいを見つけること

この3つを大切にしています!!

レクリエーションで身体を動かすことは、身体機能や生活機能の維持・向上につながっていきます。

仲間と共に作業をする事は、新たな生きがいを生み出すきっかけになります。

そして、頭も身体も心もフル活用し、可能性を引き出す時間でもあります。

これからもご利用者のためになる時間として、また皆さんと笑って過ごす時間にしていきたく思います。



一人ひとりに合った支援 リハビリテーション

専門スタッフがチームを組んで集中的にリハビリを実施

365日リハビリテーション提供!! (回復期リハビリテーション病棟・地域包括ケア病床)

- 南昌病院
- 敬愛荘
- 博愛荘
- 訪問リハビリテーションこずかた……

リハスタッフ総勢82名(理学療法士、作業療法士、言語聴覚士)、(ほかに公認心理士(臨床心理士))



こずかた診療所オープンカフェスペース 「こ〜ずカフェ」をプレオープンしました



2020年2月28日12時、診療所待合室の奥で「こ〜ずカフェ」をプレオープンしました。プレオープン記念の特別企画として、岩手初の診療アシスタントに就任した山口峻輔さんが就任あいさつと、特技の空手演武を披露しました。その後、今月就任したばかりの杉山所長も、オーストラリアで手に入れた美味しいスペシャルティコーヒーを自ら淹れて、診療所やケアセンター1階のスタッフたち約15名に振る舞いました。参加者は皆、持参したランチを食べながら、とてもリラックスした雰囲気でお互いの趣味について談笑しました。また、このオープンスペースを「こ〜ずカフェ」と命名することにしました。

「こ〜ずカフェ」は、診療所受付事務の藤澤さんが2019年度のケアセンターアイデア賞として応募申請し、見事に大賞を受賞し実現させたものです。このアイデアは、藤澤さんがふだん受付から診療所待合室を眺めていて、単に待合室として患者さんが待つだけではもったいない、より多くの方がもっとリラックスして集まれる環境があったらいいなという願いから生まれました。



ある時はシェアオフィスとして外の風景を見ながら仕事したいときに、ある時は仲間とランチを持ち寄って楽しく語らうときに、またある時は利用者さんの相談に個別に乗りたいときに一活用の仕方は様々あります。ぜひお立ち寄りください。あなたにとっての素敵なスペースとなれるよう、アイデアも大募集中です。加えて、認知症カフェやよろず相談など、様々なイベントも企画していきます。一緒に運営して下さい方を大募集します。

また、今回は診療アシスタントのお披露目も兼ねました。診療アシスタントとは、医師や看護師の業務の一部をサポートし、お互いの仕事をより有機的につなげる役職です。既に都市圏では、特に在宅医療分野において、診療アシスタントの仕事の幅が広がり、活躍しています。こずかた診療所も在宅医療の拡充を目指すにあたり、診療アシスタントが果たす役割は大きくなります。皆で応援しつつ、お互いに成長していきたいですね。

(文責：杉山賢明 こずかた診療所所長)



志和荘

施設紹介

特別養護老人ホーム：常に介護が必要で自宅では介護ができない方が対象の施設です。

【クリスマスケーキ】



昨年12月25日(水)、白石食品工業株式会社様(以下シライシパン様)よりクリスマスケーキを頂きました。シライシパン様は、長年県内の福祉施設にクリスマスケーキを寄贈されています。入居している方は、「なかなか出来る事じゃないよ！有り難いなあ〜」と感心していました。

ケーキをそれぞれのユニットにお届けしたのは愉快的なサンタと怪しいトナカイ。記念写真を一緒にパチリ！その後皆さんでケーキを美味しく頂きました。

シライシパン様、毎年美味しいケーキをありがとうございます。



【新年弁当】



1月9日(木)、新年弁当の会を行ないました。華やかなお弁当を食べて、お正月気分を味わいました。ちらし寿司・黒豆・紅白なます・豚の角煮など…。

色とりどりの弁当に皆さん目を輝かせていました。

今年は生活相談員による催し物があり、皆さん楽しめました。荘内放送で施設長が新年の挨拶を行ない、子年の入居者の皆さんと職員の名前が発表されました。その後、各ユニットを回りお正月の歌『一月一日』をピアノの生伴奏で歌いました。晴れ着姿の職員と写真を撮り「あいや〜、綺麗だな〜！」と目を細めていました。



【お茶会】



今年で3年目となる遠藤管理栄養士による『春のお茶会』が、各ユニットで行なわれています。きっかけは入居している方の「目の前で点てた抹茶とお菓子が食べたい」とのリクエストでした。袴姿の栄養士が本格的に点てた抹茶と甘い和菓子をいただき、「美味しいね〜！」と喜ばれていました。中には抹茶を飲んで「苦げ〜！！」と顔をしかめ、皆に笑われている方もいました。

遠藤管理栄養士は、「皆さんに少しでも“春”を感じていただければ嬉しいです。これからも入居者の皆さんのリクエストに答えていきたいと思います。」と話していました。

是非、これからも志和荘に小さな春を届けて下さいね♡



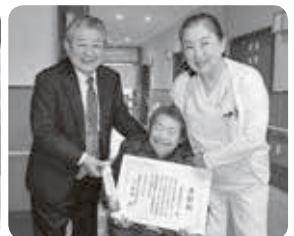
【8020表彰】



1月20日(月)、8020表彰を行ないました。志和荘に往診に来ている『みちえ・やなぎさわ歯科』の鈴木美智恵先生から岩手県歯科医師会に推薦していただいた4名の方が表彰され、賞状と津軽塗りの箸が授与されました。

志和荘の中村歯科衛生士は「80歳以上で20本以上歯が残っている事はとても素晴らしい事なのです。噛むことは全てにおいて重要です」と話していました。

表彰された4名の皆様、おめでとうございます！



【2019年度 ユニットリーダー研修に参加して】

ユニットリーダー研修は、3日間の座学(講義とグループワーク)、4日間の実地研修を行ないました。

講義では、施設に入居していても、自宅にいた時と同じような暮らしに近づける事(暮らしの継続)が大切で、そのためには本人の1日の暮らしを知る事が重要であり、24時間シートを活用する事で職員間の情報共有・他職種との連携も図りやすくなるという事を学びました。

他の施設で見学実習をする実地研修では、それぞれの入居者に合わせたケアを行なっていました。時間の流れが緩やかで、職員も入居者を急かすような声掛けはしていませんでした。その光景を見て、「施設は住まいであり、職員はそこにお邪魔している」という事の意味を強く感じる事ができました。

今すぐに完璧なリーダー、完璧なユニットを創るというのは難しいけれど、少しずつでも理想のリーダー・ユニットに近づけていけるように頑張っていきたいと思います。

(たけ町ユニットリーダー合原)

健康と長寿を祈って獅子舞もハッスル!

にぎやかなお囃子のBGMのなか、今年も各ユニットを獅子舞が訪問しました。入居者の健康と長寿を祈り、頭をガブリッ！ 迫力のある獅子舞に驚きの歓声も上がりました。



その後はお楽しみのお祝い弁当です。何から食べようか思案顔です。美味しいものを食べて大満足の新年会でした。



介護職員医療的ケア継続研修で実技を確認

この研修は「介護福祉士・認定特定行為業務従事者」に登録している介護福祉士有資格者の職員が対象で年2回行っているものです。

高橋看護師の指導のもと二人一組になって痰吸引と経管栄養の手順と実施方法について実技研修を行い、日常的に行っている吸引業務の手順に誤りがないかを確認しました。



楽器をかき鳴らし今年も赤鬼・青鬼が参上!

節分とは立春の前日のことを言うそうで、旧暦では春から新しい年が始まったため、節分は大晦日に相当する大事な日だったそうです。

季節の分かれ目には邪気が入りやすいと考えられ、鬼は邪気や厄の象徴だったそうです。「鬼は外！ 福は内！」と声を出し、無病息災を祈りながら、大豆ではなく甘納豆で鬼を退治しました。



夜間の見守り強化! シルエットセンサー設置

岩手県介護ロボット導入支援事業費補助金の交付を受けて映像確認型見守り支援システムを3台導入しました。入居者と職員の心強い助っ人です。

プライバシーに配慮したシルエット画面で夜間帯の転落や転倒など危険動作につながる前に夜勤職員に知らせてくれます。録画機能もありご家族に夜間の様子を報告する際にも役立ちそうです。



綺麗なお雛様と美味しいケーキでお祝い!

菱餅にみたてた3色のムースと甘酒と綿菓子等を皆で楽しみました。「万歳」をする入居者の姿もみられました。今年も邪気を払い入居者全員が健やかに過ごせるように、そして長寿をお祈りしました。



雛人形を見た入居者の方々は「素敵だね。きれい。立派だね」と目を細めていました。少しずつ暖かくなり春を感じてきた悠和荘でした。



恒和荘

施設紹介

小規模多機能型居宅介護事業所：小規模な住宅型の施設で、通いのほか、訪問、短期間の宿泊などを組み合わせて食事、入浴などの介護や支援が受けられる施設です。盛岡市在住者が対象です。

～冬の行事～

昔からお正月の遊びの一つに福笑いがあります。おかめやおたふくなどの面の輪郭を書いた紙の上に、目、口、鼻などの顔の一部分を散らして、目隠した利用者はこの場所と思う所に置いてもらいました。皆さん、苦戦されていましたが周りの人からのアドバイスで完成させていました。



『福笑い』

新年を迎え、毎年恒例の小正月行事「みずき団子作り」を利用者と職員で協力して行いました。

みずき団子は、みずきの木の枝に食紅で色づけされたもちを飾り、五穀豊穡を祈る小正月の行事です。職員がもちをこねて、利用者にごね具合を見てもらい、食紅をつけ利用者にもみずきの枝に飾ってもらいました。利用者の手つきが慣れていて、職員は利用者から教えてもらうことが多く、和気あいの雰囲気の中、楽しい時間を過ごすことができました。



『みずき団子作り』

～豆まき～

2月3日、節分の豆まきを行いました。職員が鬼に扮して利用者が鬼に甘納豆と新聞紙を丸めた玉を投げ、一年の無病息災を願いました。真剣な表情で鬼めがけて豆まきをしていましたが、時折、鬼が見せるお茶目なしぐさが笑いを誘い、終始笑顔の絶えない豆まきになりました。豆まきの後は職員と一緒に輪になり、物送りゲーム等を行い、利用者にも季節を感じていただく良い機会となりました。



～地域との交流～

1月19日、サンセール盛岡で開催された新庄三町内新年交賀会に当施設から職員2名が参加しました。総数85名の参加があり、地域住民と交流する機会ができ、[8月の夏祭りの他に非難訓練の時も声を掛けて下さい。私達にも何かできると思うので...]と力強い言葉を頂き今後も地域との交流を大切にしていきたいと思いをしました。



～健康な歯をいつまでも～

8020（ハチマルニイマル）運動という言葉を知ったことがあると思います。1989年（平成元年）より厚生省（当時）と日本歯科医師会が推進している「80歳になっても20本以上自分の歯を保とう」という運動です。20本以上の歯があれば、食生活にほぼ満足することができると言われていています。

当施設の利用者が、岩手県イー歯トープ8020コンクールにおいて、お口の健康が良好に保たれ歯科保健衛生の模範として日頃の努力をたたえ、一般社団法人岩手県歯科医師会より表彰されました。突然の表彰に本人はびっくりされましたが満面の笑顔で答えていました。



～施設内研修～

毎月、施設内で研修を実施していますが、2月は「知って得する成年後見制度」と題して敬愛荘主任支援相談員の戸村淳一さんを講師に招いて開催しました。成年後見制度とは何か？から始まり、なぜ制度が必要なのか、制度の種類や法定後見と任意後見の違い、法定後見の種類と少しずつ専門的な言葉が出てきましたが、実際に例題をあげて説明していただいたため、参加した職員より「分かりやすい講義だった」との意見が聞かれました。また、日常生活自立支援事業との違いについても説明を受けました。

～介護職員等 医療的ケア研修～

昨年7月から、介護職員等医療的ケア研修に参加しました。講義では、体のしくみや吸引・経管栄養についての基礎知識を学びました。人形を使い安全にケアを行なうための手順や観察事項を覚えることに苦労しました。

今年1月から敬愛荘での実地研修が始まり、実際に利用者に吸引を行なう時はとても緊張し、コツをつかむまでは苦労しましたが、回数を重ねるごとにスムーズに出来るようになりました。研修に協力して頂いた利用者や看護師に感謝しています。（平野）

～外部研修（共生社会フォーラム）～

昨年12月19日、共生社会フォーラムin岩手に参加しました。地域で活動している障害者3団体の舞台発表を観賞後、奥田知志氏を講師に迎え、近年の事件を例えに出して「いのち」をテーマにした講演でした。一つは台風19号にて被害を受けた人の避難所によるホームレス受入れ拒否問題。次は元農水省事務次官による川崎事件。問題は長期引きこもり、社会的孤立、生い立ちにあり、8050問題も日本社会の課題となっていると話されていました。

普段ニュースで様々な事件を耳にしていますが、その時は大変な事が起きたらと思って、それ以上考えず、時が過ぎ風化させてしまうことが多いですが、被害者や加害者のおかれている環境や境遇を理解し生きる上での教訓にすることが大切だと思いました。また同じ地域社会で生活していても一人一人家庭環境や性格の違い、中には病気や障害を持っている人もいる為、「共に助け合う」という考え方が必要だと思えます。（立川目）

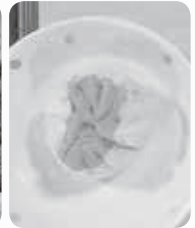
恒例の冬の行事



寒い時期になりなかなか外出が出来ない中、冬恒例の行事を行いましたので紹介します。1月はみずき団子作り、2月は節分、3月はひな祭りを行いました。みずき団子は色とりどりの団子を利用者様たちが丹念に捏ねて木に飾りました。お団子が食べられなかったのは残念でした。節分は利用者様たちも鬼のかっこうをしたり、鬼に扮した職員に紙でできたボールを投げつけたり、2階、3階対抗のゲームで気分転換できた1日でした。ひな祭りはお雛様を愛でたり、利用者様各自が作ったちらし寿司を満足気に召し上がり、甘酒にちょっぴりほろ酔い、最後は職員の芋とかぼちゃの手作り和菓子に舌つづみをうち、美味しく楽しい1日でした。



これから温かくなって散歩やお買い物など外出をする機会も出てくるでしょうから楽しみにその日を待っています。



令和元年度 外部評価の結果報告

文教施設が集まる市街地の中に位置し、2ユニット制で、2階と3階で日々独立した生活領域の元で共同生活を送っている。2階ユニットは医療面での支援が必要な利用者が多く、動きが少なく、ゆったりと静かに過ごしている。3階ユニットは活動的な人が多く、転倒防止等にも注意しながら支援している。本年度の目標の一つに「地域に開かれた事業所を掲げ、幼稚園、小学校、高等学校の社会資源を活かし、地域との交流を積極的に進め、地域との繋がりを持って暮らしていける施設づくりを目指している。利用者の中には、下校する子供達に、ホームの前で「お帰り」の声掛けをしながら交通安全の見守りを行っている。医療面では、系列法人の診療所が行っている訪問診療は、利用者や家族に安心感を与えている。（評価機関：いわての保健福祉支援研究）

ひまわりのカフェが開催されました



認知症カフェは認知症の人とその家族だけではなく、地域住民、介護や医療の専門職など誰でも参加できる場所として、お茶を飲みながら話をしたり、相談しあいながら交流を深める事ができる場所です。そのカフェが12月、ひまわりの会主催で若園荘で開催されました。

町内会長様や、会のスタッフの方々を含め総勢16人のお客様を迎え利用者様も最初はとまどいも在りましたが次第にうちとけ、ご自分の身の上話をしたり、メンバーの苦労話を聞いたり、歌を披露したりでみんなで楽しむ時間を過ごしました。ひまわりの会では看護師、歯科衛生士、薬剤師、ケアマネージャー、医師など専門家のお話のほか講演や手話体験、気功、楽器の演奏など介護家族の楽しみや介護のヒントになる事も企画されています。若園荘でも利用者様と共に今後も参加したいと思います。

「施設での看取り介護について」の研修に参加して

今回は、看取り介護に関する研修会に参加した。研修会は特別養護老人ホーム繋松苑から始まり、有料老人ホームまごころの発表へと進んで行く。

特養は介護度が高いため看取りに立ち会う機会は多いと思うが、この施設ではプロジェクトチームを作り、看取る側の職員の意識改革に取り組んでいた。発表にあたった施設長は、私達は特養なので入所された利用者様の看取りを行うつもりで対応している。そのご家族もいろいろな思いをされ、疲れきって最後にたどり着くのが特養である。介護主任をはじめとする職員の皆が、今日の食事、今日のお風呂が最後かもしれないという気持ちでケアに取り組んでおり、その気持ちを新しい職員にも伝えたいと考えている。ご家族の気持ちを考えた時、私達は8時間と言う勤務の中で頑張り、優しく接しようとする姿勢、関わり合い方を常に考えて日々を積み

重ねていくことが大切だと思うと発表していた。

続いて発表した有料老人ホームまごころは、開所から現在までの4年5ヶ月の間に看取った件数は26名だそうである。この施設の発表では、看取りは特別なことではなく人が生きていく上で誰もが行き着くものである。今まで生きてきたご本人やそのご家族の気持ちに寄り添うようにして、そこで今の自分に何が出来るかを常に考え、その思いを中心にしてケアを計画しているということだった。

2施設の発表を聞いて、ご家族や他業種との連携ができており、介護職員も密に情報を共有することによって不安なく看取りケアが行えていることがわかった。今の自分が出せる事として、利用者の思いに寄り沿い日々のケアに臨みたいと思う。（大森）

敬愛荘

施設紹介

介護老人保健施設：病状が安定し、リハビリに重点をおいた介護が必要な方が対象の施設です。入所等の相談は気兼ねなく支援相談員までご連絡ください。

レクリエーションで心も体も元気はつらつ！

敬愛荘では、利用者が活動的に過ごせるよう日常的に離床を促しています。離床は文字通り「寝床から離れる」ことです。離床することは、意識障害の改善、褥瘡予防、拘縮の予防、起立性低血圧の予防、嚥下障害の予防、排泄障害の予防などの効果が期待できます。また日常的に離床することで、本人の主体性が促され、生活の質の向上とともに身体機能や精神機能にも良い影響を与えることが期待されます。

しかし、ただ離床をしているのでは、本人にとって苦痛になる場合があります。敬愛荘では離床した際の活動の一つとしてレクリエーション(以下レク)への参加を促しています。適度な運動を取り入れるレクでは身体機能の維持、向上を図ります。指先や頭を使うレクでは脳を活性化し、認知症の予防や症状の進行を遅らせる効果が期待できます。集団で活動し他利用者や職員と触れ合うことでコミュニケーションが生まれ、意義のある人間関係の発展と維持の促進に繋がります。

★★★ 敬愛荘ではこのようなレクリエーションを行っています！ ★★★

◎体操

椅子や車椅子に座って行う体操です。この日はタオルを使用して体幹の強化や、腕や足のストレッチを行いました。



◎風船バレー

風船バレーは高齢者でも抵抗なく自然に運動ができます。腕の筋力を使うと共に、風船に向かって手を伸ばしたり、正しい方向へ飛ばそうとする時の姿勢が、バランス力のトレーニングにもなります。また動く物体を目でとらえることにより、集中力を高めます。



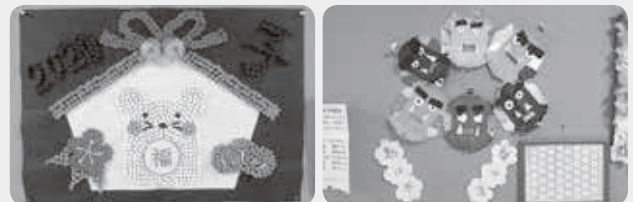
◎紙コップけん玉大会

紙コップで作成したけん玉を使用して、赤組白組対抗戦を行いました。けん玉は目と手を協調的に動かす練習になり、集中力を高めます。練習ではなかなか入らなかった方も、本番になると入ってびっくりされていました。皆さん笑顔で、お互いに応援し合いながら真剣に取り組んでいました。



◎壁画の制作

制作レクでは、紙を丸めたり、はさみで切ったり、のりで貼ったりというように手指を使う作業がメインです。これらの作業を通じて、手や指の機能の維持と向上を目指します。また複数の利用者と作業を行うことで、自然に他者との関わりが生まれ、そのことが生活にハリをもたらす、社会性や生活意欲を活性化します。



このほかにも、ボーリングや輪投げ、カラオケ、かるた、調理レクなど、年中行事や季節感を取り入れたり、プログラムをアレンジしたりして、マンネリ化しないよう心がけています。また、参加者お一人お一人の状態を把握し、その状態に合ったプログラムを選んでいきます。今後もレクを通して、利用者の心身機能の向上や笑顔と生活のハリを保つ手助けの一つとなるよう関わらせていただきます。

百寿のお祝い

2月25日に久保マチ様の100歳をお祝いする会が開かれました。お祝いにマチ様のご家族をはじめ、矢巾町長、健康長寿課関係者の方が来荘されました。記念として祝い状と花束が贈られ長寿をたたえました。ご家族は無事に100歳を迎えられたことをとても喜ばれていました。マチ様は和服姿に桃色の祝い着がとても素敵でした。これからも、笑顔でお健やかに更なるご長寿をお祈り致します。100歳のお祝い、誠におめでとうございます。



「病棟、外来勤務以外の看護師による活動」

医療連携室長（看護師長） 佐々木光政

南昌病院の看護科には、看護師、看護補助など120名が在籍しており医療の第一線として日夜奮闘しています。奮闘という表現はふさわしくないようにも思えますが、この表現は決して誇張し過ぎているということはないように思います。

このように看護職員のほとんどは病棟を担当していますが、その他に「認定看護師」という資格をもち活動している看護師3名と地域医療連携室に1名が在籍し、院内や関連施設ふくめて横断的に活動していますので紹介します。

認定看護師制度についてはご存知のない方もいると思いますが、これは日本看護協会の認定審査に合格しある特定分野において、熟練した看護技術及び看護知識を用いて水準の高い、看護の質の向上を図ることを目的に制度が作られました。

感染管理認定看護師（師長）は「職員はじめ当院に出入りする全ての人を感染症から守る」として、多職種で構成する感染対策委員会（ICT）のチームリーダーを担い、週1回の院内ラウンド、感染症サーベイランス（監視、調査）を実施し、現場に提言、指導を行なっています。折りしもインフルエンザ、さらにコロナウイルスについて連日報道されており、委員会を通じて職員間で情報を共有し取り組んでいます。みなさん感染防御は大変だと思っておりますが、その基本は、手指衛生です。なーんだと思っている人もいると思いますが、みなさん自宅においても実施していますか。言うは易しですが、院内においても100%実施されていない状況もあり、職員への啓発教育においても主導して取り組んでいます。

皮膚・排泄ケア認定看護師（師長）は、「褥瘡（床ずれ）、創傷処置、人工肛門（ストーマ）、胃ろう（腹壁を切開して管を通して胃に直接栄養等を送る）、尿や便失禁ケアの実践や指導、そして予防」など栄養に関わる多くの活動に取り組んでいます。近年、高齢患者さんの大半が低栄養状態で入院してきます。そのこと事態が褥瘡につながるため、その予防に対しては、多職種でチームを組み（NST栄養サポートチーム）最良の方法で栄養支援を行なっています。

脳卒中リハビリテーション看護認定看護師は、リハビリテーションそのものは、理学・作業療法士等が担当していますが、院外活動として脳卒中や糖尿病など、予防の面から矢巾町各地区において、出前講座を通して啓蒙活動を行なっています。病棟においては、起立訓練を主導し下肢の筋力アップを図り、転倒予防等に努めています。その他、退院支援の一つとして、患者の家屋調査を行い、看護師としての視点から多職種と連携し、患者が退院後、安心して自宅で生活できるよう提言しています。

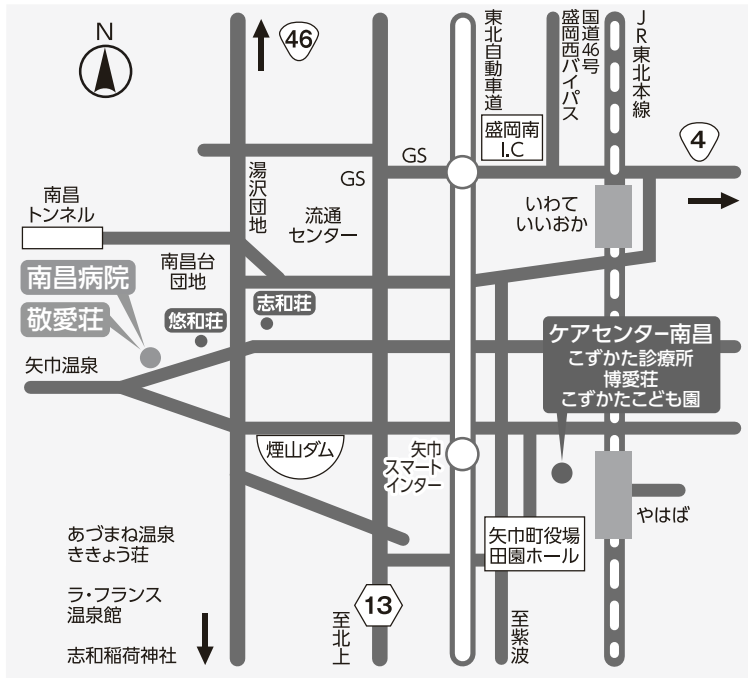
地域医療連携室には1名の看護師長が配置され、看護師としての立場から社会福祉士に患者情報を提供し退院支援につなげています。また、院内にご提案箱を設置し、患者、家族等からの提案やこれらに対する返事を事務局とともに作成提示したり、患者サポートに関しては、病棟等からの相談、提言内容を院内全体に報告し、より良い院内環境を作ることに努めています。

このように看護師の業務は病院等で直接患者に働きかけるだけでなく、地域に対する活動業務も増えてきています。

最後にこれから看護をめざす若い人たちに伝えたいことがあります。職業に貴賤はないと言いますが、特にも人が人を手当てをすることは、何事にも替え難い尊い職業だと思っております。このことを少しでも感じてもらい看護を目指す人が出てくれればうれしく思います。



矢巾町エリア



盛岡市エリア



南昌病院診療案内

診療時間/9:15~17:00

月	脳神経内科 循環器内科	佐藤 典子 三浦 秀悦
火	内科	小原 進
水	循環器内科 脳神経外科	西城 精一 木戸口 順
木	循環器内科 内科	市川 隆 藤島 行輝
金	脳神経外科	木戸口 順

こずかた診療所診療案内

診療時間/9:00~17:00 (受付 午前11:30/午後16:30まで)

月~金	内科	杉山 賢明
月~金	内科	坪谷 透
水(午前)	内科	肥田 秀彦
金(午前)	脳神経内科	前田 哲也

休診日：土曜・日曜・祝日

編集後記

◆平成22年7月に「南昌だより」第1号を発刊してから10年が経ち、今回第40号を発刊することができました。「南昌だより」は、帰厚堂及び敬愛会における医療・保健・福祉の活動を地域に発信していくことにより、当法人を利用する方の理解と協力を深めることを目的として、地域の皆様と共に歩んでまいりました。今後も発刊の目的を忘れず、より良い広報となるよう努めてまいりますので、宜しくお願いいたします。

◆当法人の新型コロナウイルス感染症の対策として、入院患者さんや利用者さんを守るために、面会制限又は面会中止、検温、マスクの着用、及び手指消毒の徹底等を行っております。ご家族の皆様や御用のある方にはご不便をおかけしておりますが、ご協力とご理解をお願いいたします。入院患者さんや利用者さんが、以前と変わらずご家族の皆さんと談笑できる穏やかな日々が早く来るよう切に願うとともに、法人が一丸となって感染対策に取り組んでおります。

医療法人社団 帰厚堂	■南昌病院	〒028-3621 紫波郡矢巾町広宮沢1-2-181	TEL 019-697-5211	FAX 019-697-5215
	■介護老人保健施設 敬愛荘	〒028-3621 紫波郡矢巾町広宮沢1-2-181	TEL 019-697-3288	FAX 019-697-0641
	■小規模多機能型居宅介護事業所 恒和荘	〒020-0805 盛岡市東新庄1丁目7-23	TEL 019-681-4166	FAX 019-604-1120
	■グループホーム 若園荘	〒020-0886 盛岡市若園町8-11	TEL 019-601-5501	FAX 019-604-1660
	■ケアセンター南昌	〒028-3614 紫波郡矢巾町又兵衛新田5-335	TEL 019-698-2015	FAX 019-611-2071
	◆こずかた診療所		TEL 019-698-3033	FAX //
	○訪問リハビリテーションこずかた		TEL 019-611-1380	FAX //
	◆介護老人保健施設 博愛荘		TEL 019-698-2015	FAX //
	◆博愛荘デイケアセンター		TEL 019-697-1526	FAX //
	◆デイサービスつむぎ		TEL 019-698-2015	FAX //
	◆訪問看護ステーションやはば		TEL 019-698-1388	FAX //
	◆ヘルパーステーションやはば		TEL 019-698-1385	FAX //
	◆訪問入浴介護やはば		TEL 019-698-1385	FAX //
◆ショートステイやはば		TEL 019-698-2015	FAX //	
◆グループホーム 敬愛荘		TEL 019-697-9002	FAX //	
社会福祉法人 敬愛会	▲こずかたこども園		TEL 019-698-3008	FAX 019-611-0221
	▲矢巾町地域包括支援センター		TEL 019-611-2855	FAX 019-611-2937
敬愛会	●特別養護老人ホーム 志和荘	〒028-3621 紫波郡矢巾町広宮沢1-100	TEL 019-697-6355	FAX 019-697-6356
	●地域密着型介護老人福祉施設 悠和荘	〒028-3621 紫波郡矢巾町広宮沢1-2-312	TEL 019-698-1661	FAX 019-698-1671
	●こずかたケアプランセンター	〒028-3614 紫波郡矢巾町又兵衛新田5-335	TEL 019-613-7603	FAX 019-613-7604
	●矢巾町地域包括支援センター さわやかハウス相談室	〒028-3615 紫波郡矢巾町南矢幅14-78	TEL 019-697-5570	FAX 019-697-5570

※ケアセンター南昌代表電話